

令和2年6月8日

名古屋教育医療記者会 各位

名古屋市立大学大学院医学研究科整形外科学分野

教授 村上 英樹

医局長 野崎 正浩

(電話 : 052-853-8236)

名古屋市立大学運動器スポーツ先進医学寄附講座

講師 吉田 雅人

(電話 : 052-853-8236)

(名古屋市政記者クラブと同時発表)

**名市大整形外科が中心となり、  
『愛知県高校球児応援プロジェクト』を発足します！**

名古屋市立大学整形外科は、夏の甲子園大会中止に伴う地方大会の代替大会の開催の実現に向け、医局を挙げて支援することを表明します。この支援を『愛知県高校球児応援プロジェクト』と名付け、夏の甲子園地方大会の代替大会を全面サポートします。

**【支援内容】**

**1 全試合に医療サポートチームの派遣**

代替大会の全試合に名市大病院の医師及び関連する病院や連携医療機関の多くの協力・支援を得て医師を少なくとも1名と、理学療法士、柔道整復師または、看護師1名から成るサポートチームをボランティアとして派遣します。

**2 医療用マスク1万枚、消毒液1千本の提供**

全試合に医療用マスクと消毒液を無償で提供し、十分なコロナ感染対策を行います。マスク、消毒液が足りなくなれば追加提供します。

**3 愛知県高野連様との業務連携を実施**

適宜、選手のメディカルチェックを行い、選手の障害予防のためのデータの収集を目的として愛知県高野連様と業務連携を行います。

ご存知のように夏の甲子園大会が中止になり、それに伴い各県大会も中止となったため各県では代替大会の開催が模索されています。5月27日には、日本高野連が各県の代替大会に1億9千万円を支出すると発表し、大きなニュースとなりました。これに関しては、今や日本国民の多くが注目しているところでもあります。しかし、福岡県が独自の代替大会の開催を早々に断念したように、代替大会開催には多くの難しい課題があります。代替大会開催の障害となる大きな課題は、コロナ感染対策と熱中症やけがなどの医療サポートの2つです。この2つが各県で大会開催の大きな障害になっていることは間違いありません。そこで、この2つの課題(障害)を解決するために名市大整形外科が医局をあげて支援したいと思います。それによって今回の大会の開催がより安全、安心に実施できることは間違いありません。